



第八回 明治神宮外苑大学クリテリウム

UNIVERSITY STUDENT CYCLE ROAD RACE CUP SERIES - FINAL ROUND
8TH MEIJI-JINGU OUTER GARDEN UNIVERSITY CRITERIUM



概要書 OUTLINE OF THE EVENT ver.1.6 2014/01/30

日程/Date	2014年2月16日(日)	16th Feb. 2014
会場/Venue	明治神宮外苑外周コース	Meiji Jingu Gaien Public Road Circuit
周長/Lap	1周1.5km	1.5km per lap
主催/Organizer	日本学生自転車競技連盟	Japan Intercollegiate Cycling Federation
後援/Supporters	明治神宮外苑	Meiji Jingu Gaien
(いずれも予定又は申請中)	東京都	Tokyo Metropolitan Government
	新宿区	Shinjyuku Board of Education
	公益財団法人 日本サイクリング協会	Japan Cycling Association
	公益財団法人 日本自転車競技連盟	Japan Cycling Federation
会場警備/Traffic security	株式会社シミズオクト	Shimizu Octo Inc.
協力/Cooperation	東京都自転車競技連盟	Tokyo Cycling Federation
協賛/Sponsors	株式会社日直商会	Nichinao Shokai
(予定)	株式会社パールイズミ	PEARL IZUMI,INC
		ほか

特 徴

都心型クリテリウムの黎明 54年ぶりの都心部サーキットロードレースとなった70周年記念クリテリウム

2007年2月4日に「明治神宮外苑学生自転車クリテリウム大会」は、日本学生自転車競技連盟創立70周年記念行事として、関係各位のご協力を得て晴天に恵まれ、多数の観客が見守るなか円滑に開催されました。所謂都心部を主会場とする自転車ロードレースの継続開催を望む各方面の方々の声に応え、多くの方々が観戦可能な都心部での大会として継続開催されています。

学生スポーツのメッカ・神宮外苑での大学サイクルスポーツの頂点

日本全国を転戦する全日本学生ロードレース・カップ最終戦+クリテリウム学校対抗

明治神宮外苑大学クリテリウムは年間十数戦からなる「全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ」最終戦として位置づけられ、総合優勝者に授与される黄色地に学連ブルーのチャンピオンジャージを競う場となっており、大学生の都市型ロードレースにおける頂点を決する大会です。また、学校別チームエントリーによるクリテリウム学校対抗戦ともなっており、インカレ、チーム・ロードレースと並んで大学別優勝を決する大会として高く位置づけられています。更に世界大学選手権自転車競技大会派遣選手選考大会のひとつでもあり、学生自転車スポーツの国際化とレベル向上に寄与し、明治神宮外苑に根付いてきています。

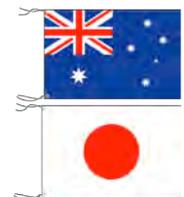
全日本学生ロードレースカップシリーズ 平成25(2013年)年度			会 場 等
月	日	曜 日	
4	20-21	土・日	全日本学生RCS第1戦 粟の花嶺山ラウンド(ヒルクライム+クリテリウム)
5	18-19	土・日	全日本学生RCS第2戦 第14回修善寺オープンロード+女子オープンロード
6	2	日	全日本学生RCS第3戦 第25回全日本学生個人ロードTT自転車競技大会
7	27-28	土・日	全日本学生RCS第4戦 白馬クリテリウムラウンド
8	3-4	土・日	全日本学生RCS第5戦 お台場サイクルフェスティバル湾岸クリテリウム
8	11	日	全日本学生RCS第6戦 大町美麻ロードレース
9	8	日	全日本学生RCS第7戦 山形村ヒルクライムラウンド
11	2-3	土・日	全日本学生RCS第8戦 レモンアイランドレースしまなみ海道瀬戸内いくちしまラウンド
11	17	日	全日本学生RCS第9戦 浮城の町行田クリテリウムラウンド
12	15	日	全日本学生RCS第10戦 埼玉クリテリウム行田第1ラウンド
2014年			
1	5	日	全日本学生RCS第11戦 埼玉クリテリウム行田第2ラウンド
1	26	日	全日本学生RCS第12戦 埼玉クリテリウム行田第3ラウンド
2	16	日	全日本学生RCS最終戦 第8回明治神宮外苑大学クリテリウム
2	23	日	全日本学生RCSオープン戦 埼玉クリテリウム行田第4ラウンド



サイクルスポーツの国際交流促進

学校対抗形式(各校3名のチームエントリー)のグループ1には2009年・韓国から安東大学チームが、翌年には韓国体育大学が韓国学生チームが参戦、以降オランダやオーストラリアから毎年招待チームが参加し、国際色を伴ってきています。

2014年はオーストラリアからメルボルン大学チームの参加を予定しています。



走りながら考える 大学自転車フォーラム

大会開催のみにとどまらず、全国から競技者の集まる機会を活用して前日に「ユニバーシティ・フォーラム」を開催しています。2013年のユニバーシティ・フォーラムではドーピング問題を取り上げ、各方面から注目を集めました。2014年のテーマは「2021年の自転車競技にむけて」を予定しています。東京オリンピック・パラリンピックに向けた準備はもちろん重要ですが、その後の社会に何を引き継げるか、を意識しながらこれからの時間を過ごすきっかけとすることを期待しております。

こども、その親の世代であるマスターズ世代に参加機会のある大会へ

将来のサイクルスポーツ振興にとって学生自転車競技の振興は不可欠ですが、それにとどまらず、将来サイクルスポーツに何らかの関わりを持つ若年層の掘り起こし、そのために必要なそのご両親の世代の自転車競技に対する理解を深める場を検討していきます。

小・中学生のタイムトライアル、マスターズのタイムトライアルとクリテリウムレース、一般参加のライド(レースではありません)を予定しています。

競技運営のプロトタイプ提示としての役割

皆様のこうした期待に応えるべく、日本学生自転車競技連盟は安全性に対する十分な配慮、関係機関との十分な調整に基づく入念な準備という基本方針を堅持しつつ、継続的に開催可能な収支計画とより多くの参加者を受け入れられるオープンな体制とのバランス・ポイントを求め、準備を進めてまいります。社会に必要とされ、支えられる大会で有り続けるため、また補助金依存体質となることを避けるべく、民間企業・団体からの支援、参加チーム学生・OBのマンパワー、行政・開催地諸機関の協力による大会運営を実施してまいります。

20140130版

時 程 表

2月15日(土)

13:30-16:30	大学自転車競技フォーラム	
	「2021年の自転車競技に向けて」	
	於 国立オリンピック記念青少年総合センター(セ309)会議室	

2月16日(日)

6:00	会場設営開始	
7:30	競技役員・立哨役員集合打合	
9:00	交通規制開始	
09:00 - 09:30	参加選手受付・ゼッケン配布	
10:00	開会式	
10:20	オープン&ウォームアップ・ライド	1.5km×5laps = 7.5km
10:50	タイムトライアル(小・中学生,ハンドサイクル、マスターズ)	1km×1 lap = 1km
11:20	男子大学生 グループ3 A組	1.5km×6laps = 9km
11:40	男子大学生 グループ3 B組	1.5km×6laps = 9km
12:00	マスターズ・クリテリウム	1.5km×8laps = 12km
12:20	表彰式(午前の部)	
	セフティライド講習会	
	立哨員昼食(コース閉鎖)	
13:00	男子大学生 グループ2 A組	1.5km×8laps = 12km
13:25	男子大学生 グループ2 B組	1.5km×8laps = 12km
13:50	女子(学連登録選手+JCF登録競技者)	1.5km×8laps = 12km
14:20	男子大学生 グループ1(大学対抗)	1.5km×20laps = 30km
15:20	表彰式・閉会式(午後の部、大学対抗、シリーズ総合)	
17:00	規制解除(予定:早まる場合があります)	

式 次 第

開会式

開会宣言

主催者挨拶

来賓挨拶・ゲスト紹介

全日本学生RCS門田杯返還

選手宣誓

10時00分より スタート・フィニッシュ地点にて

麦倉陽介 日本学生自転車競技連盟学生委員長

井関康正 日本学生自転車競技連盟副会長

坂本勉 ロサンゼルスオリンピック銅メダリスト
オーストラリア・メルボルン大学チームメンバー

前年度RCS総合リーダー 明治大学 西沢倭義

前年度優勝校 鹿屋体育大学代表 黒枝土揮

表彰式・閉会式

表 彰

歓送のことば

閉会宣言

15時20分より スタート・フィニッシュ地点にて

午後の部各カテゴリ、大学対抗優勝杯贈呈、RCS総合

松倉信裕 日本学生自転車競技連盟理事長

鈴木智大 日本学生自転車競技連盟学生副委員長

至 新宿
To
Shinjyuku

JR中央線 千駄ヶ谷駅

JR Station
"Sendagaya"

午前9時より午後5時まで交通規制されます
 絵画館駐車場への 入出庫は可能です
 Public traffic control : 9:00 am - 5 :00 pm
 Kaigakan car park is available during the event

都営地下鉄大江戸線
国立競技場駅
Subway Station
"Kokuritsu Kyogijo"

国立競技場
National Stadium
ウォームアップゾーン
Warm-up zone →

絵画館駐車場
Kaigakan Car Park

慶應義塾大学病院
Keio University
Hospital

JR中央線 信濃町駅
JR Station
"Shinano machi"

至 秋葉原
To
Akihabara

東宮御所
The Crown Prince's
Palace

国学院高校

神宮球場
Meiji-Jingu
Baseball
Diamond

青山高校

秩父宮ラグビー場
Prince Chichibu
Memorial Rugby
Stadium

青山駐車場
(時間貸)
Aoyama Car Park

	交通規制範囲 Traffic control Area
	レース・コース Race Circuit
	絵画館駐車場入出路 Kaigakan car park access
	コース横断路 Crossing

至 渋谷
To
Shibuya

地下鉄
外苑前
Subway Station
"Gaiemmae"

至 天現寺

地下鉄
青山一丁目
Subway Station
"Aoyama-itchome"

テクニカル・ガイド

v2014.01.09.

- 大会日程 2014年2月16日(日) (雨天決行、積雪・路面凍結・荒天の場合中止)
 会場 明治神宮外苑周回コース 1周1.5km (東京都新宿区・港区)
 大会主旨 本大会は、本年度全日本学生ロードレースカップ最終戦としてその総合優勝者を決定し、またクリテリウムにおける大学対抗優勝校を決定する大会である。本大会は2007年2月に首都東京での初めてのクリテリウム大会として開催された「日本学生自転車競技連盟創立70周年記念行事 明治神宮外苑学生自転車クリテリウム大会」を発展的に継承し、学生スポーツのメッカである神宮外苑での学生自転車スポーツの振興普及を図るとともに、日本のサイクル・スポーツ全般の振興と東京の都市文化醸成に寄与することを目的としつつ、更に将来学生自転車競技者となる若年層の拡大に向けて、小・中学生ならびにその両親の年齢層にサイクル・ロードレースの楽しみを体験する機会を提供することをも目指す。
- 主催・主管 日本学生自転車競技連盟
 後援 明治神宮外苑 東京都 新宿区
 公益財団法人日本自転車競技連盟 公益財団法人日本サイクリング協会 (予定・順不同)
- 会場警備 株式会社シミズオクト
 協力 東京都自転車競技連盟 シクロチャンネル
 協賛 株式会社日直商会 株式会社パールイズミ 富士重工業株式会社
 株式会社シマノ トップツアー株式会社 株式会社なるしまフレンド
 株式会社東機貿 有限会社横尾双輪館 株式会社オージーケーカブト
 パナソニック・サイクルテック株式会社 JX日鉱日石エネルギー株式会社 (予定・順不同)
- 競技規則 国際自転車競技連合(UCI)規則,(公財)日本自転車競技連盟競技規則,本大会特別規則による。
 競技種目および参加資格
- (1.2.3.4.5.7.参加資格共通事項：本年度公益財団法人日本自転車競技連盟登録競技者)
 (1.~3.参加資格共通事項：日本学生自転車競技連盟登記選手)
 (1.~5.は競技用ロードレーサー使用のこと、6.~8. は自転車の制限は特にありません)
1. 大学生男子大学対抗(グループ1) 20周30km
 本年度日本学生自転車競技連盟加盟各校を代表する**1校あたり2名から3名までの選手**。
 ただし日本学生自転車競技連盟ロードカテゴリ1または2の選手に限る。
 本連盟が招聘した海外大学チーム、1チームあたり2名から3名までの選手。
 当日ゼッケン配布時に、グループ2参加申込者より2名迄の補欠を起用する事ができる。
2名未満のチームは参加することはできない。当日欠場により2名未満となったチームはグループ2での出走を認める。
 2. 大学生男子グループ2 8周12km
 本連盟ロードカテゴリ・クラス1または2の選手。
 3. 大学生男子グループ3 6周9km
 本連盟ロードカテゴリ・クラス3の選手。
 4. 女子クリテリウム 8周12km
 全ての(財)日本自転車競技連盟登録女子競技者。
 5. マスターズ・クリテリウム 8周12km
 本年度日本自転車競技連盟登録選手(男女)で2014年1月1日時点で満30歳以上の者。
 ただし、集団スタートロードレース走行経験者に限ります。
 6. 小・中学生タイムトライアル 1周1km(銀杏並木Uターンなし)
 小・中学校年齢の児童・生徒で、ヘルメット&グローブ着用・自分の自転車で参加できる者。
 7. マスターズ・タイムトライアル 1周1km(銀杏並木Uターンなし)
 本年度日本自転車競技連盟通年登録選手(男女)で2014年1月1日時点で満30歳以上の者。
 8. ハンドサイクル・タイムトライアル 1周1km(銀杏並木Uターンなし)
ハンドサイクルを使用する男女、年齢制限無し。本年度日本自転車競技連盟通年登録選手でないものは本大会申込を以て臨時登録者として参加できる。
 9. オープン&ウォームアップ・ライド(レースではありません) 5周7.5km
 ヘルメット&グローブ着用・自分の自転車で参加できる者。
 および上記**1から8**に参加するすべての者。
- 各カテゴリとも上限概ね60名とする。(オープン&ウォームアップ・ライドは概ね100名迄)

日本学生自転車競技連盟加盟各校については選手数に応じた立哨役員・競技役員と、大会本部用テントの供出を参加のための必要条件とする。

選手数	供出立哨役員数（東京および隣接県の学校）	供出立哨役員数（左記以外の学校）
1	0	0
2～3	1	0
4～5	2	1
6～7	3	1
8以上	選手2名につき1名 （少数点以下切り捨て・最低数）	選手4名につき1名 （同左）

立哨役員は、コース上の指定された箇所（合計約100カ所）に立ち、選手と一般客・歩行者との事故防止その他の安全管理にあたる。立哨役員は審判資格を必ずしも必要としないが、自転車競技に関する経験もしくは理解があり、自転車競技のスピード感や走行特性について体得している者とする。立哨役員・競技役員には、交通費等は支給されない。

・大会本部用テントの供出数

大学対抗に出場する東京・埼玉・千葉・神奈川の学校から各1張。テントの大きさは特に制限しないが、大きめのものを歓迎します。供出するテントの大きさをエントリー用紙に記載のこと。持参しない場合は2万円のペナルティーを課す。

参加申込

- ・参加希望選手は所定の様式にて2014年1月21日(火)必着にて受付を行う。
- ・電子メールの到着を以て正式エントリーの受領とするが、電子メールと同一内容を郵送またはFAXにて大会事務局宛、期限内に送付すること。
- ・小・中学生は保護者の同意書が必要。
- ・参加希望者数が定員に満たない場合、参加希望者はすべて参加可能とする。
- ・エントリー申込者数が参加予定人員を超えた場合、主催者にて参加可能者を決定し、本連盟ウェブサイト上に発表する。参加可能者の決定は、大学生については1校あたり登録選手数、他のカテゴリについては申込順を基準とする。
- ・1月21日（火）までに、参加料振込を行うこと。
- ・参加料は、本連盟登録大学生5,000円、小・中学生500円（新宿区・港区在住もしくは在学の小中学生は300円）、女子オープン7,000円、マスターズ・クリテリウム、マスターズ・タイムトライアル各7,000円、但しマスターズ・クリテリウムとタイムトライアル2種目参加時は10,000円、オープン&ウォームアップ・ライドのみの参加者は5,000円とする。
- ・ハンドサイクル・タイムトライアルに参加するJCF通年登録者は7,000円、通年登録者でない者は8,000円とする。
- ・参加料には、駐車料金は含まない。
- ・参加料の送金は、銀行口座振込とする。
- ・送金名義人について、振込元名義に、大会コード 0216と、チーム単位の場合はチーム名を、個人参加については参加者名が分かるように記入すること。
（例：0216ガクレンダイガク）（例：0216トウキョウタロウ）

振込先:三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)・渋谷支店 (店番135)・普通預金0157344
口座名:日本学生自転車競技連盟 代表 倉田達樹

納入した参加料は悪天候の為に中止、その他理由の如何にかかわらず返却しない。

大会本部

聖徳記念絵画館正面スタート・フィニッシュ地点付近テント

開設時間 08:00-17:00 電話080-4159-2712

選手受付

- 1.大会本部にて、**9:00-9:30の間に**ライセンスを提示してゼッケンを受取ること。（小・中学生、オープン&ウォームアップ・ライドはライセンス不要）
- 2.選手は、各カテゴリー競技開始15分前迄に出走サインシートに出走サインを自署すること。

事故措置

- 1.競技中発生した事故について参加者は自ら責任を負う。
主催者にて応急処置の体制は準備するが、以降は参加者の責任と費用負担にて対応の事。
- 2.各自の責任において参加者自身の傷害保険に加入の事。
- 3.各選手は、健康保険証を必ず持参すること。

特別規則

第1条 (個人順位)

男子グループ1と女子は、最終周回のフィニッシュラインへの到達順位により順位を決定する。

それ以外のカテゴリは、最終完走周回数と、S/F地点中間スプリントで与えられる得点を基に最終順位を決定する。周回数の最も多い者を優勝者とする。周回数において同等の場合は、得点の多寡による。

周回、得点において同等の場合は、中間スプリントの勝数による。

以上においても同等の場合は、最終着順により決定する。

第2条 (大学対校順位)

大学生男子グループ1に出場の各校における上位者2名の順位合計の少ない学校順。

順位合計同等の場合はより上位者を有する学校。

第3条 (周回獲得、遅れ)

主集団の後尾に追いついた競技者は1周回先行したものとみなし、周回の優位性を認める。

原則としてメイン集団より遅れた20名以下の集団の選手は直ちに失格とする。

認められる事故による遅れの場合、遅れ集団が20名以上の場合にはコミッセルの判断による。

競技を中止した選手は、コースから出て、速やかにゼッケンを外すこと。

第4条 (ポイント配分)

中間スプリントとして2周回ごとにフィニッシュラインを通過した先頭から5点、3点、2点を与える。

最終ゴールは1位より10位迄順に、12,10,8,7,6,5,4,3,2,1点を与える。

第5条 (事故)

認められる事故の場合、最後の2周(グループ1は5周)を除き1周のニュートラリゼーションが

適用される。ニュートラリゼーション適用直後のポイント周回で得点することはできない。

器材修理は、指定されたピット(S/F地点および銀杏通りUターン部)においてのみ認められる。

第6条 (飲食料補給)

飲食料の補給は認めない。

第7条 (自転車)

公道を走行可能な装備を義務付ける。ベル、後方反射板もしくは反射テープも必須とする。

第8条 (無線装置)

競技者はレース中、無線装置の使用を認められない。

第9条 (ギア比)

大学生ジュニア選手のギア比の制限は行わない。

タイムトライアルのジュニア、ユースのギア比はJCF規則による。

第10条 (賞典)

オープン&ウォームアップ・ライド 参加者全員に参加賞(表彰式はありません)

小中学生タイムトライアル 完走者全員にタイム証明書・参加者全員に参加賞(全員表彰台へ)

マスターズ・タイムトライアル 完走者全員にタイム証明書・参加者全員に参加賞(全員表彰台へ)

親子孫家族表彰 小中学生+マスターズ・タイムトライアル2名合計タイム最上位者に賞品

以下のカテゴリは上位3位までを対象として準備が整い次第、表彰式を行う。

マスターズクリテリウム、ハンドサイクルTT、女子クリテリウム、男子グループ1, 2, 3

優勝者：賞状・賞品、第2-8位：賞状。

大学対校順位 優勝校：賞状・賞品、第2-8位：賞状。

大学生男子グループ3各組上位5%は、クラス2に昇格する。大学生男子グループ2各組最上位者

ならびに大学生男子グループ1に出走したクラス2の選手の最上位者はクラス1に昇格する。

第11条 (その他)

ボトル、食料の残り・包装等、固形物は、フィニッシュ地点およびピットにてチーム同僚が回収す

る場合のみ地面に静かに落とす事が認められる。それ以外の場所でのあらゆる固形物の投げ捨ては

コース内・外、レース中・外を問わず、3000円のペナルティを科す。

注意：大会要項は諸事情により変更される場合があるので、JICFウェブサイトを確認すること。

問い合わせ先：日本学生自転車競技連盟

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館412号室

電子メール：jicf@remus.dti.ne.jp ホームページ：http://www.remus.dti.ne.jp/~jicf/

事務局電話&FAX：03-3481-2369 (お問合わせはなるべく電子メールにてお願いします。)

電話問い合わせは毎週水曜19時より22時のみ承ります)

大学自転車競技フォーラム2014東京

2021年へむけて

開催主旨

大学自転車競技フォーラムも今年で4回目となりました。「学門と競技のバランス・相乗効果」について議論が進んだ第1回、「スポーツ・自転車競技は震災からの復興に対して何ができるのか」を考えた第二回、「ドーピング問題とどう向き合うか」を議論した第三回、何れも海外の大学生を交え中身の濃いものとなりました。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決まり、晴れの舞台に出場し活躍したい、という願望は誰しも持っていると思います。2020年も重要ですが、そこまでのプロセスと、そこで得たことをその後活用することもまた重要です。これから向かうべき方向性と為すべき事を定めていくべき今の時期を捉え、議論と認識を深める機会となり、またこのフォーラムが各選手・関係者の情報交換の場として活用されることを期待しております。

日 時 2014年2月15日(土) 13時30分～16時40分
 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟3階309研修室
 東京都渋谷区代々木神園町3番1号 <http://nyc.niye.go.jp/>
 小田急線 参宮橋駅(新宿より各駅停車約3分)下車徒歩約7分
 東京メトロ千代田線 代々木公園駅(C02)下車 代々木公園方面 4番出口 徒歩約10分

13:20 開 場
 13:30 開会挨拶 三宅秀一郎 日本学生自転車競技連盟強化普及委員長
 13:35 **第一部 故村田統司氏(元日本学生自転車競技連盟副会長)を偲ぶ**
 南 昌宏 早稲田大学自転車部OB会長
 14:00 休 憩
 14:20 **第二部 TOKYO2020レガシー戦略と2021年のJICF**
講 演 ・東京を目指す選手諸君へ 坂本 勉 ロサンゼルス五輪メダリスト
 ・シドニー五輪の遺産 メルボルン大学チームメンバー
 ・ロンドンの自転車競技場戦略 松倉 信裕 日本学生自転車競技連盟理事長
 ・東京1964オリンピック 井関 康正 日本学生自転車競技連盟副会長
 ・人に魅せる競技にむけて 黒川 剛 鹿屋体育大学自転車部監督
パネルディスカッション
 パネリスト：上記に加え、 金井 誠人 全日本学生RCSリーダー
 モデレーター 三宅秀一郎 日本学生自転車競技連盟強化普及委員長
 16:20 質疑応答
 16:30 閉会挨拶 井関 康正 日本学生自転車競技連盟副会長

入場無料
 予約は jicf@remus.dti.ne.jp
 または FAX.03-3481-2369 まで
 氏名・住所(町まで、番地不要)
 を2月14日までにお送り下さい。
 (当日受けもいきます)